

ランチョンセミナー6

演題名	医診伝心！Vscan で繋ぐ在宅と病院のスムーズな連携 ～地域全体の HAPPY を目指して～
-----	--

概要

Vscan の特性は移動性・簡便性である。「その医療機関の診療の動線と患者層に即した使用方法の構築」・「病診連携（後方病院とのコミュニケーション）」であり、精度を重要視する大型エコーとは異なる。設備が十分でない環境（診療所や往診など）での救急診療の不安の1つは、十分な診断がつかない状況でどの病院の何科に受け入れてもらえるかである。一方、救急搬送を受ける側も本当に自分達の守備範囲かを不安に感じている。迅速な搬送先決定・診断・治療に寄与できる Vscan を代表とするポケットエコーが現場と後方病院の共通言語になれば、その不安を軽減できる可能性がある。また、当院では Vscan を使用して最も喜んだのは、看護師・介護士・患者家族だった。ベッド移譲・病院通院の頻度が減少し、腰痛が軽減された人もいた。Vscan による診療ワークフローの変化を症例ベース（体液管理・熱源検索・喘鳴・急性腰痛症など）で「簡単に、大まかに」見る方法を紹介する。さらに、座位のまま・寝たきり患者での診察の工夫や、Vscan ならではの描出のコツ（肺エコー・経鼻胃管・胃痙・ペースメーカーなど）も概説する。最後に、超高齢化社会での Vscan の将来性を展望する。